



かんさいてい ひと もの はこ きゅうじょ はたら
艦載艇は、人や物を運んだり、救助する働きもの！



せんかん やまと かんさいてい ぶん やまと かんび ふね こうほう み ふね
 戦艦「大和」の艦載艇を見てみましょう。10分の1「大和」の艦尾(船の後方)をよく見てみると、船が見えます。



せんかん やまと だいしやう
 戦艦「大和」には大小
 7種類、全部で 16隻
 の短艇(ボート)が積
 まれていたんだよ。

■ 10 分の 1 戦艦「大和」艦尾 (船の後方)

かんさいてい
艦載艇とは？

かんさいてい の たんてい
 「艦載艇」とは海軍の船に載せられている短艇(ボート)のこと。軍艦は基本的に岸に横付けすることなく、沖合に停泊し、そこから短艇で陸へと渡ります。人を運んだり、救助したり、そのほか船の仕事に使われるなど、それぞれの短艇に仕事があります。

せんかん やまと とうさい たんてい
戦艦「大和」に搭載されていた短艇(ボート)

※かつこ内は、長さを表しています。

すいらいてい メートル ないかてい メートル ないかてい メートル ないか メートル ないか メートル ないか メートル ないか
 水雷艇(17 m)、内火艇(15 m)、内火艇(11 m)、内火ランチ(12 m)、内火ランチ(8 m)、カッター(9 m)、通艇(6 m)

ないかてい
■内火艇(15m)

おも しかん (指揮をとる人) の上陸等の交通用ボートとして使用されました。このほか、船が停泊している場所(泊地)の周りをパトロールする仕事(哨戒任務)を行うときにも使われました。

ないか
■内火ランチ(12m、8m)

主に乗組員の輸送用に使われ、12m で 110 人、8m で 30 人乗ることができました。

ないか
■カッター(9m)

救助用、兵員輸送、物資の運搬、錨をおろす時などに使用されました。9m カッターは、12 本のオールで漕ぎ、45 人が乗ることができました。



▲内火艇(15m) 模型

艦隊司令長官が上陸するときなどに使つため、長官艇とも呼ばれました。写真の模型は、10 分の 1 「大和」のある「大和ひろば」に展示されています。

かくのう かんさいてい
格納された艦載艇たち

かんさいてい ふね の
 艦載艇(船に載せられているボート)をしまふ倉庫(格納庫)が備えつけられていたことは、戦艦「大和」の一つの特徴でした。「大和」の 46 センチ主砲は、発射すると爆風がすさまじく、船の上に置いてあるものが壊れてしまうほどでした。そこで、船に積んでいる短艇(ボート)をしまふための倉庫を確保し、短艇(ボート)を引き込んで格納することにしました。



カッター競技

そうたんてい はじ
「総短艇！！」で始まるカッター競技

呉市のすぐ近くの江田島市には、海軍の士官になるための海軍兵学校がありました。海軍兵学校の「カッター訓練」は有名で、大変激しく、チーム(分隊)ごとの競争で、その速さを競います。オールは全員が団結して漕がなければ前に進みません。海軍兵学校は現在、海上自衛隊の幹部候補生学校であり、今でもカッター訓練が行われています(左の写真はそのようす)。